

大館曲げわっぱ 150 年の森育成事業に参加しました

天然秋田杉に替わる秋田杉人工林の育成を行い、伝統工芸品「大館曲げわっぱ」を次世代へ継承していくとともに、ふるさとキャリア教育の一環として小学生が植栽や除間伐等の体験を通し、地元の伝統文化と森林環境保全・保護を大切に思う心を育むことを目的として、大館市山瀬ダム周辺にある大館市有林において、令和6年7月19日(金)に「大館曲げわっぱ 150 年の森育成事業」が開催されました。当署では、平成30年から開催されている本事業に毎年参加・協力しており、今年は当署5名、上小阿仁支署3名、技術普及課から2名の職員が参加しました。今回は地元の早口小学校と山瀬小学校6年生児童計32名が「下刈り体験」を行いました。開会式では主催者の大館市と当署からの挨拶に続き、参加した児童に下刈り方法などの説明を行いました。



開会式の様子



児童に下刈り方法などを説明

開会式終了後、8班に分かれていよいよ下刈り体験。児童たちは職員の指導を受けながら、刈込バサミを使って熱心に雑草や雑木を刈り払いました。

下刈り体験後は、場所を山瀬ダムに移動して森林教室を行う予定でしたが、雨が続いたことからやむを得ずバス内で技術普及課職員から「スギのおはなし」をしていただき、児童たちは真剣に話を聞いていました。

途中で雨模様となり少し残念でしたが、今回の経験により子供たちが地元の伝統文化と木を育てることの大切さなど、理解を深めてもらえたのではないかと思います。



職員の指導を受け下刈り体験



森林教室の様子